

研究タイトル： 歴史的建造物の地域性に関する研究



氏名：	松岡 高弘／MATSUOKA Takahiro	E-mail：	matsuoka@ariake-nct.ac.jp
-----	-------------------------	---------	---------------------------

職名：	教授	学位：	工学博士
-----	----	-----	------

所属学会・協会：	日本建築学会, 建築史学会, 産業考古学会, 日本デザイン学会
----------	---------------------------------

キーワード：	社寺建築, 民家, 近代建築
--------	----------------

技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的建造物の修理・保存・活用 ・ ・
-----------------	--

研究内容： 歴史的建造物の地域性に関する研究

本研究の目的は、本校が所在する福岡県南部、江戸時代の筑後国南部地域(旧柳河藩域)における寺院・神社・住宅等の歴史的建造物の特徴を明らかにし、地域の建築的特性、地域の建築文化に関して考察することである。

対象とする各種の建築に関し、以下のような事項について着目し、考察を行う。

寺院建築では当該地域で最多数の宗派である浄土真宗寺院本堂の外陣構成に着目し、当該地域における変化を明らかにし、境を接する他地域(久留米藩・熊本藩・佐賀藩)との比較を行う。また、寺院の正門である山門を二重門とすることが多い当該地域において、その形式の相違と特徴を明らかにする。

神社建築では当該地域で最も多い本殿形式である入母屋造の本殿の変化、拝殿の形式、神社の神門の変化を明らかにする。また、境を接する他地域の本殿との比較を通して当該地域の特徴を明確化する。

民家では近世の武家住宅から昭和戦前期の住宅までの変遷を平面構成、座敷飾等に着目して明らかにする。また、近代の民家における仏間について考察する。

近代和風住宅では福岡県南部地域という範囲に限定せず、広い範囲の住宅を対象とする。例えば、近代化に関わった炭鉱経営者の広大な住宅では、その平面構成の変化を明らかにし、建築を通して近代化をとらえていく。

主な研究論文等

- ・『旧緒方家住宅調査報告書』平成 30 年 3 月
- ・「筑豊の炭鉱経営者の住宅の特徴」産業考古学第 155 号 平成 30 年 3 月
- ・『柳川の歴史的建造物』平成 27 年 3 月
- ・『柳川の社寺建築Ⅱ』平成 23 年 3 月
- ・「炭鉱経営者の住宅における旧伊藤伝右衛門邸の位置付け」『飯塚市指定有形文化財旧伊藤伝右衛門邸修復工事報告書』所収 平成 19 年 3 月
- ・『柳川の社寺建築Ⅰ』平成 18 年 2 月
- ・『北九州市の神社建築』平成 15 年 3 月

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	